

令和6年度山形県介護支援専門員実務研修 実習受入に関する説明会

山形県 健康福祉部高齢者支援課 介護指導担当

※あらかじめ山形県老人福祉施設協議会ホームページに掲載されている介護支援専門員実習受入に関するガイドライン及びチェックリストを御準備ください。

介護支援専門員実務研修における
実習の目的と意義について

介護支援専門員資質向上事業について

「介護支援専門員資質向上事業の実施について」

(平成26年7月4日 老発0704第2号厚生労働省老健局長通知 最終改正令和 6 年 3 月28日)

介護支援専門員の研修における国の実施要綱

(別添1) 介護支援専門員実務研修実施要綱

「(略)したがって、実務研修の内容は、利用者の自立支援を図るために、アセスメントの重要性を認識し、居宅サービス計画、施設サービス計画及び介護予防サービス計画の作成、サービスの利用、モニタリングの実施等のいわゆる「ケアマネジメント」の過程に沿った各段階で必要な視点や手法を修得するとともに、地域包括ケアシステムの中で医療との連携をはじめとする多職種協働の手法を修得できるものでなければならない(3 実施方法及び研修課程の一部抜粋)」

介護支援専門員資質向上事業について

介護支援専門員資質向上事業ガイドライン

(別冊1) 介護支援専門員実務研修各科目のガイドライン

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare

介護支援専門員資質向上事業ガイドライン 令和5年4月

ホーム > 政策について > 分野別の政策一覧 > 福祉・介護 > 介護・高齢者福祉 > 介護支援専門員 > 介護支援専門員資質向上事業

介護支援専門員資質向上事業

ガイドライン・研修記録シート等

令和5年4月版(令和6年4月施行)

のガイドライン

- 介護支援専門員資質向上事業ガイドライン
- 別冊1 実務研修Ⅰガイドライン
- 別冊2 専門研修Ⅰガイドライン
- 別冊3 専門研修Ⅱガイドライン
- 別冊4 主任介護支援専門員研修ガイドライン
- 別冊5 主任介護支援専門員更新研修ガイドライン

○研修記録シート

- 実務研修
- 専門研修Ⅰ
- 専門研修Ⅱ
- 主任介護支援専門員研修
- 主任介護支援専門員更新研修

政策について

- 分野別の政策一覧
- 健康・医療
- 福祉・介護
- 障害者福祉
- 生活保護・福祉一般
- 介護・高齢者福祉
- 雇用・労働
- 年金
- 他分野の取り組み

介護支援専門員資質向上事業について

介護支援専門員資質向上事業ガイドライン
(別冊 1) 介護支援専門員実務研修各科目のガイドライン
(令和 5 年 4 月版 (令和 6 年 4 月施行))

前期ケアマネジメントの基礎技術に関する実習 (別冊p38~39)

目的

実習現場でのケアマネジメントプロセスの経験を通じて、実践に当たっての留意点や今後の学習課題等を認識する。

内容

実習に当たっては、利用者への居宅訪問を行い、アセスメントの実施、居宅介護サービス計画の作成、サービス担当者会議の準備・同席、モニタリングの実施、給付管理業務の方法などの一連のケアマネジメントプロセス実習を行う。

介護支援専門員実務研修について

介護支援専門員実務研修 カリキュラム (令和 6 年度～)

研修科目	時間数
【前期】	
介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント	講義 3 時間
自立支援のためのケアマネジメントの基本	講義及び演習 6 時間
相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎	講義及び演習 4 時間
人格の尊重及び権利擁護並びに介護支援専門員の倫理	講義 3 時間
利用者、多くの種類の専門職等への説明及び合意	講義及び演習 2 時間
ケアマネジメントのプロセス	講義 2 時間
ケアマネジメントに必要な基礎知識及び技術・受付及び相談並びに契約	講義及び演習 1 時間
アセスメント及びニーズの把握の方法	講義及び演習 6 時間
居宅サービス計画等の作成	講義及び演習 3 時間
サービス担当者会議の意義及び進め方	講義及び演習 3 時間
モニタリング及び評価	講義及び演習 3 時間
介護支援専門員に求められるマネジメント (チームマネジメント)	講義及び演習 2 時間
地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムの深化及び地域の社会資源	講義 3 時間
生活の継続を支えるための医療との連携及び多職種協働の意義	講義 3 時間
ケアマネジメントに係る法令等の理解	講義 2 時間
実習オリエンテーション	講義 1 時間
ケアマネジメントの基礎技術に関する実習	(3 日間)
【後期】	
実習振り返り	講義及び演習 3 時間
ケアマネジメントの展開	
生活の継続及び家族等を支える基本的なケアマネジメント	講義及び演習 3 時間
脳血管疾患のある方のケアマネジメント	講義及び演習 4 時間
認知症のある方及び家族等を支えるケアマネジメント	講義及び演習 4 時間
大腿骨頸部骨折のある方のケアマネジメント	講義及び演習 4 時間
心疾患のある方のケアマネジメント	講義及び演習 4 時間
呼吸器疾患の予防のケアマネジメント	講義及び演習 3 時間
高齢者に多い疾患等 (糖尿病、高血圧、脂質異常症、呼吸器疾患、腎臓病、肝臓病、筋骨格系疾患、廃用症候群等) の留意点の理解	講義 2 時間
看取りに関する事例	講義及び演習 4 時間
地域共生社会の実現に向け他法他制度の活用が必要な事例のケアマネジメント	講義及び演習 3 時間
アセスメント及び居宅サービス計画等作成の総合演習	講義及び演習 4 時間
研修全体を振り返っての意見交換、講評及びネットワーク作り	講義及び演習 2 時間

(計 87 時間)

評 価 表

利用者名 _____ 殿

作成日 / /

短期目標	(期間)	援助内容			結果 ※2	コメント (効果が認められたもの/見直しを要するもの)
		サービス内容	サービス 種別	※1		

※1：「当該サービスを行う事業所」について記入する。 ※2：短期目標の実現度合いを5段階で記入する(◎：短期目標は予想を上回って達せられた、○：短期目標は達せられた(再度アセスメントして新たに短期目標を設定する)、△：短期目標は達成可能だが期間延長を要する、×1：短期目標の達成は困難であり見直しを要する、×2：短期目標だけでなく長期目標の達成も困難であり見直しを要する)

介護支援専門員実務研修における実習 受入れに関するガイドライン(山形県版)



1 基本的な考え方

県ガイドライン P1

実務に入る前にできるだけ多くの要介護者の生活を知ることが必要



一つの事例に基づいてケアプランを作成を実践することに加えて「見学」も位置づけられている。

実務研修前期に展開されるケアマネジメントプロセスの学習を踏まえてケアプランの作成までの一連のプロセスを実体験するとともに、多様な要介護高齢者の生活実態をすることにも重点が置かれており、実践にあたっての留意点や今後の学習課題等を認識する場として実習が位置づけられている。

実習方式による研修の基本的な考え方

県ガイドライン P1

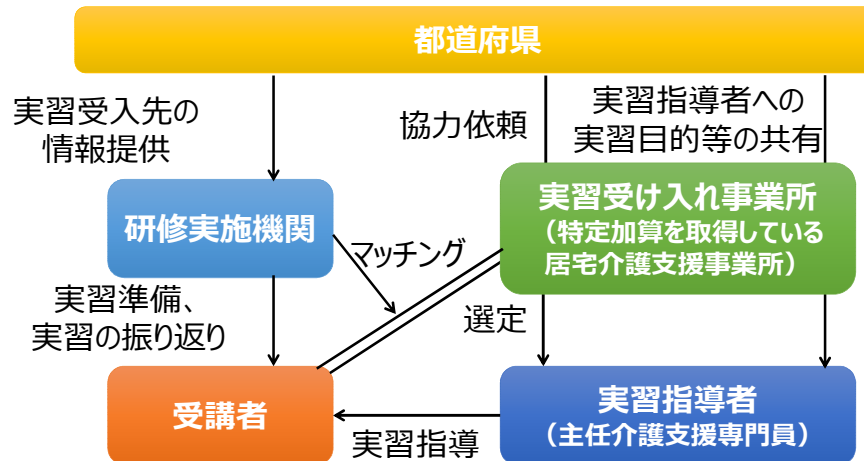
実習内容

- ①一連のケアマネジメントプロセスを実践的に学ぶこと（ケアプラン作成含む）
- ②多様な要介護高齢者の生活に対応したケアマネジメント を経験すること（見学）

実習の実施における関係機関の主な役割

県ガイドライン P2

関係機関の主な役割のイメージは以下の通り。



マッチングの考え方の基本

- 特定事業所加算Ⅰ→Ⅱ→Ⅲ→Aの順に優先する。
 - 同じ条件（所在地、加算等）の場合は、昨年度受入れのなかった事業所を優先する。
 - 特定事業所加算のない事業所は、受入れ先としない
- ※上記を基本とし、実習生の居住地や勤務先などを考慮して総合的に判断する。